令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

学校名　品川区立宮前小学校

[国語]

（１）定着状況についての概要

・ ３、６年生は、観点別の「知識・技能」「思考・判断・表現」が全国平均正答率と同じ、もしくは上回っている。

・ ２、４年生は、観点別の「知識・技能」「思考・判断・表現」が全国平均正答率を下回っている。

・ ５年生は、観点別の「知識・技能」は、全国平均正答率を上回り、「思考・判断・表現」は、全国平均正答率を下回っている。

（２）具体的な課題

以下、各学年における特に正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
２	・漢字を書くこと・文章を読み取ること・聞いたことをもとに話をすること ・文章を書くこと
３	・漢字を読むこと・物語を読み取ること・文章を書く
４	・話し合いの内容を聞き取ること・漢字を書くこと・漢字のへんやつくり ・ローマ字の読み・文章を書くこと
５	・漢字を書くこと・修飾語の理解・文章を書くこと
６	・話し合いの内容を聞き取ること・漢字を書くこと・文章を書くこと

（３）課題の原因として考えられること

・相手や目的に応じた文章の構成を考える力が定着しておらず、文章を組み立てることへの苦手意識があり時間がかかる。

・漢字を正しく覚えて、日常的に使う習慣がない。

・読書量が全体的に少なく、読書には取り組んでいるものの、発達段階に応じた本を選択できていない児童が見られる。

（４）課題の解決のための方策

〇相手や目的に応じた文章を書く力や、文章構成を考えて書く力の向上を図るために

・設問のキーワードに着目させたり、問いを言い換えたりする活動を取り入れ、何を問われているのかを正確に捉える力を養う。

・日記・作文を書く機会を多く設定し、書くことを習慣化し基礎力を高めるとともに、既習漢字の定着を図る。

〇読書への興味・関心を高めるために

・朝読書や読書フェアを継続的に行うとともに、発達段階や興味・関心に応じた本を紹介し、読書習慣の定着と読書量の向上を図る。

[社会]

（１）定着状況についての概要

・ 校内平均正答率は、４、５、６年生全学年で全国平均正答率より下回っている。

（２）具体的な課題

以下、各学年における特に正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
4	・市の様子・店ではたらく人・市の様子の移り変わり・安全なくらし(火事)
5	・都道府県の様子・ごみの処理と利用・特色ある地域の様子・先人のはたらき
6	・世界の中の国土・日本の農業・日本の水産業・日本の工業生産 ・情報を生かした産業

（３）課題の原因として考えられること

・ 各学年、グラフや資料を読み取る機会が少ないため、定着が図られていない。
・ 社会科で使われる基本用語や地図記号、方位などの基礎知識の定着が不十分である。
・ 読み取った内容を自分の言葉で表現する機会が少ない。
・ 日常生活との関連付けが弱く、学習内容を身近な事象として捉えにくい。

（４）課題の解決のための方策

〇資料の読み取りの定着のために

・単元を通して地図・グラフ・表・写真など複数の資料を読み取る活動を継続的に取り入れる。
・「何が分かるか」「どの資料からわかるか」といった視点を明確にして資料活用を習慣化する。

〇「知識・技能」を高めるために

・地図や白地図を日常的に活用する。
・フラッシュカードやカルタを用いて、用語や地図記号等の基本的な知識を確認する。

〇「思考・判断・表現」を高めるために

・学習したことや自分の考えをまとめ、整理するための機会を増やす。新聞やポスター、プレゼンテーション等の良いまとめ方を教師が例示を出す。

[算数]

（１）定着状況についての概要

・ 観点別の「知識・技能」では、３年生、６年生のみ全国平均正答率を上回っているが、それ以外の学年は、下回っている。

・ 観点別の「思考・判断・表現」では、３年生、４年生、６年生のみ全国平均正答率を上回っているが、それ以外の学年は、下回っている。

（２）具体的な課題

以下、各学年における特に正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
２	・ひき算　・３つの数の計算・かたち・計算問題の読み取り、説明・たし算
３	・１００００までの数(数直線)・たし算・かけ算・文章問題(求補の場面)
４	・ひき算(波及的繰り下がり)・円と球・図形(記述による説明)・かけ算
５	・分数・概数・小数の計算・平行四辺形(作図)・折れ線グラフと表
６	・小数の計算・立体・単位量当たりの大きさ・速さの単位の変換・平均

（３）課題の原因として考えられること

・全学年を通して、基礎的な計算力が不足している。

・学習の積み重ねができていない。

・文章問題や資料の読み取り、文章で論理的に説明する機会が不足している。

（４）課題の解決のための方策

〇基礎的な計算力を付けるために

・授業の始め５分間を利用して既習の計算問題を復習する時間を設ける。

〇既習事項を復習する機会を増やすために

・学習アプリ等を活用して、計算や数の理解、割合や平均の求め方等について、継続的に復習する時間を設ける。

・宿題や復習の時間に、コンパス等を使って作図をする機会を増やす。

〇考えをもち、分かりやすく説明をする力を育てるために

・授業の中で自分の考えを式や図、文章で表し、相手に伝える活動を多く設定する。

・授業の中で問題場面を図に表したり、比例関係図を描いたりする活動を多く設定する。

[理科]

（１）定着状況についての概要

・４年生は、「知識・技能」は全国平均正答率を上回っている。「思考・判断・表現」は下回っている。
・５年生は、「知識・技能」「思考・判断・表現」で下回っている。
・６年生は、「知識・技能」は全国平均正答率を下回っている。「思考・判断・表現」は上回っている。

（２）具体的な課題

以下、各学年における特に正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
４	・太陽と地面のようす・音のせいしつ・電気の通り道・光のせいしつ
５	・雨水のゆくえと地面のようす・自然の中の水・物の体積と温度
６	・植物の発芽と成長・けんび鏡の使い方

（３）課題の原因として考えられること

・自然事象を比較、検討する時に、他の自然事象と混同してしまう。
・条件を整えて関係性を見出していく実験を行う際に、どの条件について確かめる実験かを十分に理解しないままに進んでしまうため、理解が不十分である。
・日常生活に起こる自然現象を学習事項と結び付けられていない。

（４）課題の解決のための方策

〇適切に比較、検討しながら実験を行うために

・電気を通すものと磁石に付くもののように、混同しやすい自然事象を扱う際に、単元別に学習するのではなく、同時並行して学習するカリキュラム編成を行い、比較検討できるようにする。
・混合しやすい鏡と虫眼鏡で光を集める時のように、器具の違いによって、明るさが変わる条件を比較する実験を行う際に、図のみで表現するのではなく、言語化をして、共有、確認する。

〇条件を整えて関係性を見出していく学習時間を確保するために

・観察・実験を行う前に何についての条件を整えるのかを確認する時間を確保していく。その上で、この条件を変えると何が分かるのかを確認する時間を確保し、実験に臨めるようにする。

〇学習した自然事象を日常生活や他の場面に適応できるようにするために

・日常的にその現象が既習事項の何と関連するのか意識できるような声掛けをしていく。例えば太鼓を使う時に、音と震えの関係についてふれる。

[英語]

（１）定着状況についての概要

・ 校内平均正答率は、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国平均正答率を上回っている。

（２）具体的な課題

以下、各学年における正答率の低い内容である。

学年	課題となった内容
6	・音声を聞いてアルファベット（大文字・小文字）を正確に書き取る問題 ・会話音声を聞き、特定の場所や注文の具体的な情報を聞き取る問題

（３）課題の原因として考えられること

・ 音声と文字の対応関係の理解が十分でなく、聞いた音を正確なアルファベット（活字体）に変換して書く技能が定着していない。

・ 会話音声の中から、特定の場所や注文内容などの重要な情報を選択的に整理して聞き取る体験が不足している。

（４）課題の解決のための方策

〇音声と文字の対応関係の定着（フォニックス指導の強化）

・毎時間の授業導入（Small Talk 等）において、JTE や ALT と連携し、音声を聞いてアルファベットを正しく書き取る活動を継続的に実施する。

・４線上の正しい位置に文字を書くワークシートを用い、音声を聞いて文字化する練習を毎時間行う。

〇目的意識をもたせたリスニング活動の充実

・授業内のリスニング活動において、「場所」や「注文内容」など聞き取るべき情報を明確にし、メモを取りながら聞く指導を徹底する。

・タブレット端末（ICT）等を活用し、聞き取った情報をもとにペアで伝え合う言語活動（やり取り）を単元計画内に組み込む。